

知床・斜里町×北大まるごと交流祭を開催

広報・社会連携本部では、本学と自治体が連携し、地域の課題解決と活性化を目指す「自治体×北大まるごと交流祭」を令和6年度から開催しており、8月30日（金）に、世界自然遺産「知床」のまち、斜里町を本学に迎え、「知床・斜里町×北大まるごと交流祭」をオープンイノベーションハブ「エンレイソウ」（以下、エンレイソウ）にて開催しました。

会場では、8月26日（月）から斜里町を紹介するパネルや特産品などを展示し、当日は斜里町が取り組んでいる知床ブランディングのシンボルであるクマのキャラクター「知床トコさん」グッズのほか、斜里町の特産品などを販売する「しれとこマルシェ」、斜里

町の役場職員や地域で活躍されている方々と本学の学生や教職員が斜里町の魅力を語り合いながら交流する「知床・斜里町交流会」、斜里町の地域課題をテーマに斜里町と本学の研究や教育の連携の可能性について参加者を交えてディスカッションする「地域経営×大学リーダーゼミ」を実施しました。

しれとこマルシェは本学の教職員や観光客など多くの方で大変なにごわいとなり、知床・斜里町交流会には76名、地域経営×大学リーダーゼミには77名と多くの方に参加していただき、熱い議論が交わされました。

全体を通して、参加者からは「原生的な自然や農業の町だというイメージでしたが、素晴らしく先進的なまちづ

くりをしている町ということが分かった」、斜里町の方々からは「学生の方々の斜里町の認知度、地域づくりに関する熱量、大学の連携度合を知ることができた」といった声があり、斜里町との関係を深める一歩となりました。

今年度の自治体×北大まるごと交流祭は、10月11日（金）に東胆振地域1市4町（苫小牧市、白老町、厚真町、安平町及びむかわ町）を、10月25日（金）に北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林のある和歌山県古座川町を本学に迎えて開催します。

（広報・社会連携本部）



エンレイソウの展示の様子



しれとこマルシェの様子



知床・斜里町交流会の様子



地域経営×大学リーダーゼミでコメントする農学研究院の愛甲哲也教授（右から2人目）とメディア・コミュニケーション研究院の石黒侑介准教授（右端）